

船岡農地・水・環境保全向上対策委員会の取組について ～園部第二小学校ずい道見学～

文：南丹市立園部中学校
第2学年 関直人

平成27年11月13日、南丹市立園部第二小学校の4年生が船岡へ社会見学にいきました。今回の取組は、船岡農地・水・環境保全向上対策委員会と園部第二小学校が協力して行われました。これに先立つ10月2日には、同校の5年生に対して、地域の環境学習として取り組まれましたが、今回は、4年生の社会科「郷土の発展に尽くす」という学習として行われました。

さて、その内容は以下のとおりです。今回、私たちもそれに同行しました。

- 1) 桂川沿いにある大西堰（取水口）及び農業用水路を見学する。
- 2) ずい道（人の手で掘られた用水路のトンネル）の中に入る。また、トンネル造りを指導した人物を知る。

最初に、児童たちは大西堰を見学しました。

児童たちは、水路を見るとすぐに、「水がきれい」「町まで続いているの？」など、とても関心を持っていて、船岡農地・水・環境保全向上対策委員会のみなさんも喜ばれていました。



さあ、大西堰へ出発！



大西堰の話を聞こう！



水流を観察しよう！



取水口を確認中！

次に、児童たちはずい道を見学しました。中に入る前に、児童たちはずい道を掘った人物（内藤 良助 氏）の石碑を訪れ、ずい道の歴史などを学んでいました。そして、ずい道の中に入る際、児童たちはヘルメットをかぶりました。私も入って分かったのですが、中は暗く、岩がむき出しでとても狭かったです。



石碑の話を聞こう！



ずい道は狭くて真っ暗



いよいよ、ずい道の中へ！



出口はこんな感じ

そして、一連の見学が終わり、児童たちの最後の感想では、「あんなに長い水路を手で掘ったなんてすごい。」「昔の人の頑張りがよく分かった。」「生き物がいっぱいいて楽しかった。」などの意見があがりました。

地元の農家さんや、船岡農地・水・環境保全向上対策委員会の河村さんは、「地元の歴史に触れることで、先人の知恵や苦勞、ありがたみを感じ、さらに将来へ伝えていってほしい。その面では児童にはとても楽しく学んでもらえたので、本当に良かった。」と話しておられました。

私は、この事業を通して地元にもこのような「歴史の1ページ」があり、様々な人たちの取組で現在まで残され、伝えられてきていることに時代の長さを意識することができました。また、今から何十年、何百年と経った時は自分たちが守っていく立場になっていくのだということを実感しました。

